

**12月14日** (土曜) 13:30 (13:00開場) ~

**丸善 丸の内本店** にて

品川女子学院 校長  
**漆 紫穂子**

**新刊発売記念講演会 開催決定!!**

# 教育現場の最前線から、 子育て・教育の

## “今”と“これから”をお話しします。

**日時** 2013年12月14日(土) 13:30~(開場13:00)

**場所** 丸善・丸の内本店 3階日経セミナールーム

※要整理券。丸善丸の内本店にて、書籍『伸びる子の育て方』をお買い上げの先着100名様に、和書売場各カウンターにて整理券をお渡しします。

(お電話でのご予約も承っております。整理券がなくなり次第、配布終了となりますので、お急ぎください)

→お問合せ：丸善丸の内本店 (03-5288-8881)



【保存版】  
特別付録

### 合格した受験生の親が語る！

\*小4・5・6でやってよかった本音アドバイス(全32ページ)から一部抜粋

さらに本書には  
各々著者  
アドバイスあり

- 「妹の受験のとき、受験経験者の長男から『親が怒ったところで成績は伸びないから怒らないほうがいいよ』と言われました。なるほど、よいサポーターになれるよう、親も努力が必要だと思いました」
- 「大きなホワイトボードに家族全員の1週間分の予定を記入しました。お互いにスケジュールを把握できてよかったです」
- 「母親はフルタイムで仕事、父親は出張が多く、弟は保育園児。ほとんど野放しの受験でした。塾で食べるお弁当を本人が作り、学習の予定も自分で立て、自己責任で受験に臨んだことが、結果として本人のやる気を伸ばしたようです」
- 「6年の冬休みまで夜型だったので、徐々に30分単位で朝型にしていき、1月末には5時30分に起きるようになっていました」
- 「夫とは、塾との面談内容や学校説明会の様子などを細かく情報共有していました。また、模擬試験の際の送迎などを通して、『父親も一緒に受験しているのだ』と、子どもに思ってもらえるようにしていました。幼稚園に通っていた妹の世話も夫婦で分担していました」……など。

その他、やってしまって後悔したことも、小4・5・6年各学年別で紹介！  
合格直後の本音アンケートだけに、親身なアドバイスが満載！

# 品川女子学院校長・漆 紫穂子の最新刊

品川女子学院校長

漆 紫穂子 Shihoko Urushi

## 伸びる子の育て方

“自己肯定感”があれば、  
どんな困難にも負けない  
自立した子に  
変わる!

【保存版】  
特別付録

合格した受験生の  
親が語る!  
小4・5・6でやってよかった  
本音アドバイス

ダイヤモンド社



11月22日(金)  
全国発売!!



- 第1章 ▶ 30年近い教員生活で確信。  
受験、就職を乗り越える一生の財産  
=「自己肯定感」のつけ方
- 第2章 ▶ 働く親だからこそできる  
「生活力の偏差値」がアップする家庭習慣
- 第3章 ▶ 「人間関係力」が向上する対話術
- 第4章 ▶ 私はなぜ、たくさんの失敗ともめ事を  
「プレゼント」するのか
- 第5章 ▶ 自己肯定感の高い子の学習習慣と目標突破力
- エピソード ▶ 私がトライアスロンの世界大会に出場した理由
- おわりに ▶ サウジアラビアの驚くべきエリート教育を  
目の当たりにして
- 【保存版】  
特別付録 ▶ 合格した受験生の親が語る!  
小4・5・6でやってよかった本音アドバイス  
▶ 受験期間に親がすべき、  
してはいけないチェックリスト

### 著者からのメッセージ

本書では、私の30年近くの現場経験で、実践して効果があった「**家庭ですぐできること**」を紹介します。

そして、実際にあった生徒・親・教師をめぐるさまざまな出来事をヒントに、「**自己肯定感の育み方**」をお伝えします。

自信なさげに見えた子が、親や教師のひと言で、また、みずからのチャレンジで得た自己肯定感を糧として受験や就職を乗り越え、幸せな人生を歩む姿を数多く見てきました。

「**急速に伸びる子**」の背景には、いつもこの自己肯定感の獲得がありました。

自己肯定感とは、**親が子どもに授けられる「一生の財産」**と言えるものなのです。

巻末には【保存版】特別付録として、「**合格した受験生の親が語る！ 小4・5・6でやってよかった本音アドバイス**」を収録しました。これは毎年、新入生の親御さんに協力いただいているアンケートにもとづいたものです。

合格発表直後に実施させていただいただけに、小4・5・6年の各学年に向けた親身なアドバイスが書かれています。**初めて公開する貴重な資料**です。

## 漆 紫穂子 (うるし・しほこ)

1925年から続く中高一貫校・品川女子学院の6代目校長。  
東京都品川区生まれ。都立日比谷高校、中央大学文学部卒業、早稲田大学国語国文学専攻科修了。2006年より現職。1989年から取り組んだ総合的学校改革により、わずか7年間で入学希望者が60倍、偏差値が20アップし、マスコミで大きく報じられる。学校改革のなかでも「28プロジェクト」は、生徒が28歳になったときに社会で活躍する姿をイメージした教育プログラム。生徒たちは通常の進学指導とともに、企業とのコラボレーションによる新商品開発や起業体験に取り組む。本書では、30年近い現場経験で培った教訓を、家庭でもすぐできるスキルとして紹介。

世界経済フォーラムの東アジア会議出席、独立行政法人日本学術振興会グローバル人材育成推進事業プログラム委員会委員及び大学の世界展開力強化事業プログラム委員会委員、公共機関や各種企業での講演など、社会と直接つながった「新しい役割の学校づくり」を目指す。  
趣味はトライアスロン。日本代表に選抜され、2012年国際トライアスロン連合(ITU)世界選手権スペイン大会において年齢別部門16位で完走。  
著書に、『女の子が幸せになる子育て』(かんき出版)、『女の子が幸せになる授業』(小学館)、『女の子の未来が輝く子育て』(朝日新聞出版)などがある。